

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 7 年 1 月 2 3 日（木）
用 務 先	広島県庁 広島市中区基町 1 0－5 2 JR 西日本広島支社 広島市東区上大須賀町 1 5－2 0
用 務	視察及び要望活動
概要及び所見 （目的、参考 にすべき事 項、提言、活用 策等）	【概要・抜粋】 ①広島県地域政策局公共交通政策課 芸備線再構築協議会・幹事会の概要及び取り組み、議論の論点、今後の対応について ●全国的な鉄道ネットワークのあり方について、基本方針と大臣指針に基づき、JR の路線維持に係る努力義務の規定について、国の考え方を明らかにしてほしい。全 国的な鉄道ネットワークのあり方に関する整理は、この協議会の議論の大前提であ る。 ●三次市、安芸高田市、広島まちづくり交通協議会(任意協議会) ハード事業として、立地適正化法に基づく取り組み。1 日 2 日ではできない取り組 みである。 ソフト事業として、駅に人が集まり、住民が拠点として日常的につどう取り組みを していく。 ストーリー性を持ち人を動かす仕組みについて実証事業していく。 ②JR 西日本中国統括本部広島支社(地域交通)

●三次市、安芸高田市、広島まちづくり交通協議会(任意協議会)

三次広島間の現状について設備や利用状況などの説明があり、姫新線太市駅の事例などの紹介があった。

任意協では、まちづくりの議論をしましょう！ということで、JRとしては芸備線とまちづくりの観点で議論し、芸備線に輸送量以上の価値を見出すことを目的としていきたい。

社会資本整備総合交付金のメニュー実施するためにはどうするのか。具体的に沿線自治体から議論の提示がない。色々なスキームの研究はしており、来年度素案策定へ。機能を上げる取り組みをしていき、法定協議会に進めていきたい。

【要望・相談事項】

●運行ダイヤは輸送量で決定している。一番利用していただいている高校生について、最優先で考えており、ダイヤ改正で登下校に影響があれば学校に確認をしている。早く下校するテスト期間中は、予定臨を設定している。

利用者数の減少により列車キロを削減しているが、利用減よりは緩やかにしている。

●中高校生からの要望で一番多い運行ダイヤの改善について、どちらかを立てれば、どちらかが立たなくなることがある。鉄道の性格上、引き違い駅など設備上の制約により細かな対応ができない。そうした場合は牟岐線の事例など、バスとの連携を考えていく必要がある。

●広島発最終便の繰り上げについて、カープ観戦など芸備線利用が難しい現状があるものの状況に対しては、実際の輸送量を鑑みて設定している。夜間の補修工事などにおいて人員確保が困難な状況になっている。働き方改革の観点からも昼間保守の拡大も必要になっている。

●ICOCA のエリアの拡大については、優先順位をつけた上で、今後支線の中で利用多い駅に設置していく。機能向上のスキームの中で考えていきたい。

●券売機の廃止は、券売機の利用が少ないため。中古の機材も探したが、適当なものなかった。

●高速化や行き違い駅の増設などの施設整備については、上下分離、みなし上下分離などの取り組みを法定協の中で、実現可能か考えていきたい。JRとしては設備増設による運行本数増などによる採算性の低下についても考慮しなければならない。

【所見】

広島県、JR 西日本、双方の意見を聞いた。どちらの意見もその通りであるが、立場の違いから相互の考えが逆のように感じた。しかしながら、最終的には利用者や住民福祉の向上に向けて、基礎自治体とともにまとまっていかなければならない。公共交通である以上、資本整備は負担という受け取りでなく、投資であるとの観点も必要である。

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 藤岡 一弘

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和7年1月23日(木)
用 務 先	広島県地域政策局公共交通政策課 西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部広島支社地域交通課
用 務	芸備線の再構築協議会に対する広島県の動向の研修及び意見交換 JR 西日本担当者との意見交換
概要及び所見 (目的, 参考に すべき事項, 提言, 活用策 等)	1. 芸備線の再構築協議会に対する広島県の動向の研修及び意見交換について (1) 面談相手 広島県地域政策局公共交通政策課 課長 (2) 面談内容 芸備線の再構築協議会に対する広島県の動向の研修及び意見交換 (3) 所感 この度、芸備線の再構築協議会の進捗状況や県の考え方について、広島県地域政策局公共交通政策課の担当者と意見交換を行った。 再構築協議会内に意見の相違はあると感じる。しかし、庄原市西城地域における芸備線の必要性など、その理解はして頂いている。芸備線の存続と活性化に向けて、我々地方議員も考え、関わっていきたい。 2. JR 西日本担当者との意見交換 (1) 面談相手 JR 西日本中国統括本部広島支社地域交通課 山口課長 (2) 面談内容 芸備線の利活用及び再構築協議会における意見交換 (3) 所感 この度、芸備線について要望も含む意見交換を行った。 通学している中高校生の要望で一番多いのが、運行ダイヤ問題である。運行ダイヤの編成について、利用者の声がどのように聞かれ、それがどう反映されているのか伺いたいという質問に対しては、「運行区間にもよるが、高校生などの学生の方々の利用が最も多い運行区間の場合で、朝や夕方の通学時間で大きな影響がある場合は、各学校に報告・

	相談をしている。また、運区ダイヤは、輸送量(乗車人数)が多い区間が優先される。実際に、三次市にある日彰館高校に向かうダイヤ(福塩線)と庄原市にある庄原格致高校に向かうダイヤ(芸備線)では、福塩線が芸備線より輸送量が多いことから、福塩線のダイヤ設定を優先している。」と返答をいただいた。 利用者の声を聞いていただいていることに安堵したが、ダイヤ改正や今後の芸備線の活用について、今後も引き続き調査・研究を行い、関わっていく。
--	---